

北九州市 御中

分析レポート

北九州市には、次にどんなアクションが必要だと思いますか？



2025年3月28日



意見募集の概要・実施結果

- **実施内容**：北九州に必要なアクションに関する意見募集を行った。
- **調査方法**：デジタルツール「PoliPoli Gov」を用いたインターネットリサーチ
- **意見募集のテーマ**
 - 北九州市には、次にどんなアクションが必要だと思いますか？
- **調査期間**：2025/01/16～2025/02/28（44日間）
- **調査地域**：全国オンライン
- **ページ閲覧数**：5,056PV
- **総コメントユーザー数**：152人（*ユーザーIDの重複を削除した値より、ユニークユーザー(UU)数を算出）
- **総コメント投稿数**：423件（*コメント公開基準に抵触する非公開コメントを除外した値を算出）
- **回答者の属性（必須回答）**：
 - **年代**：10代以下、20代、30代、40代、50代、60代、70代以上
 - **北九州市の関わり**：北九州市に居住している、北九州市外から通勤・通学している、過去、北九州市に居住・通勤/通学した、観光などで北九州市を訪れた、北九州市を訪れたことはない

意見募集の仕組み

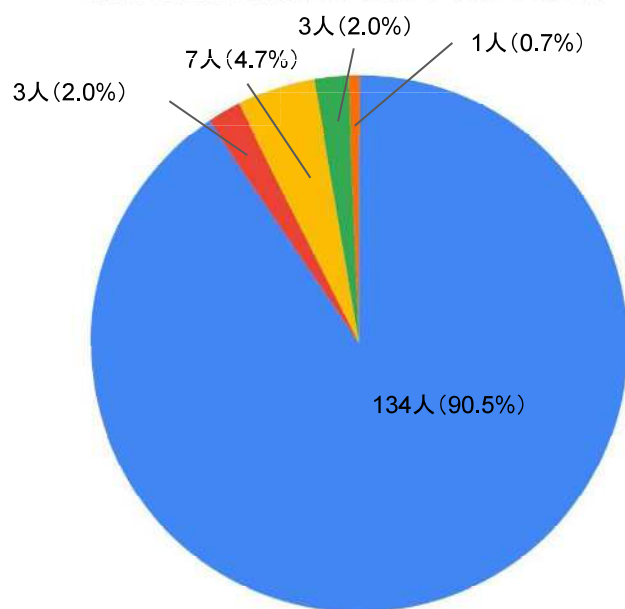


※プラットフォーム内のコミュニティを健全に保つため、投稿されたコメントが攻撃的な内容や広告目的と判断された場合に、運営側でコメントを非公開としています。



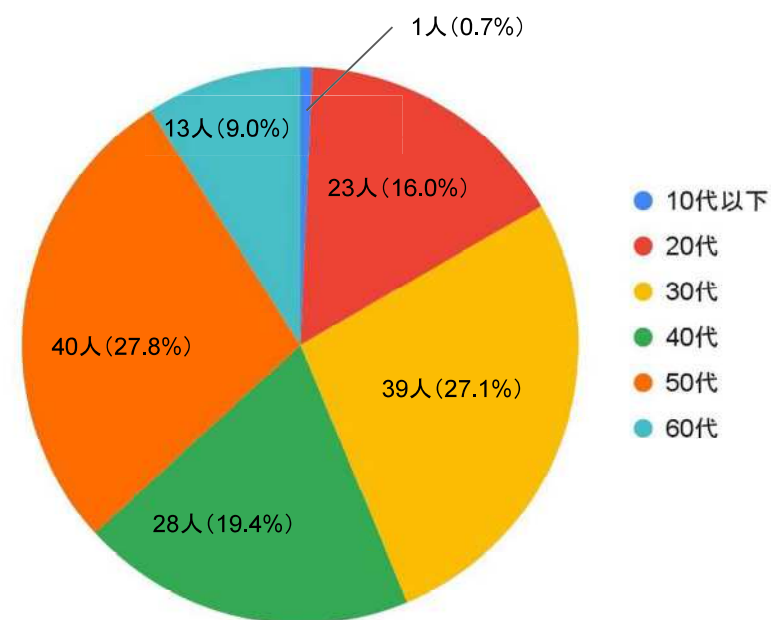
意見募集の概要・実施結果 | 全コメントにおけるユーザー属性

あなたと北九州市の関わり(UU 152人)



- 北九州市に居住している
- 北九州市外から通勤・通学している
- 過去、北九州市に居住・通勤/通学した
- 観光などで北九州市を訪れた
- 北九州市を訪れたことはない

あなたの年代(UU 152人)



- 10代以下
- 20代
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代

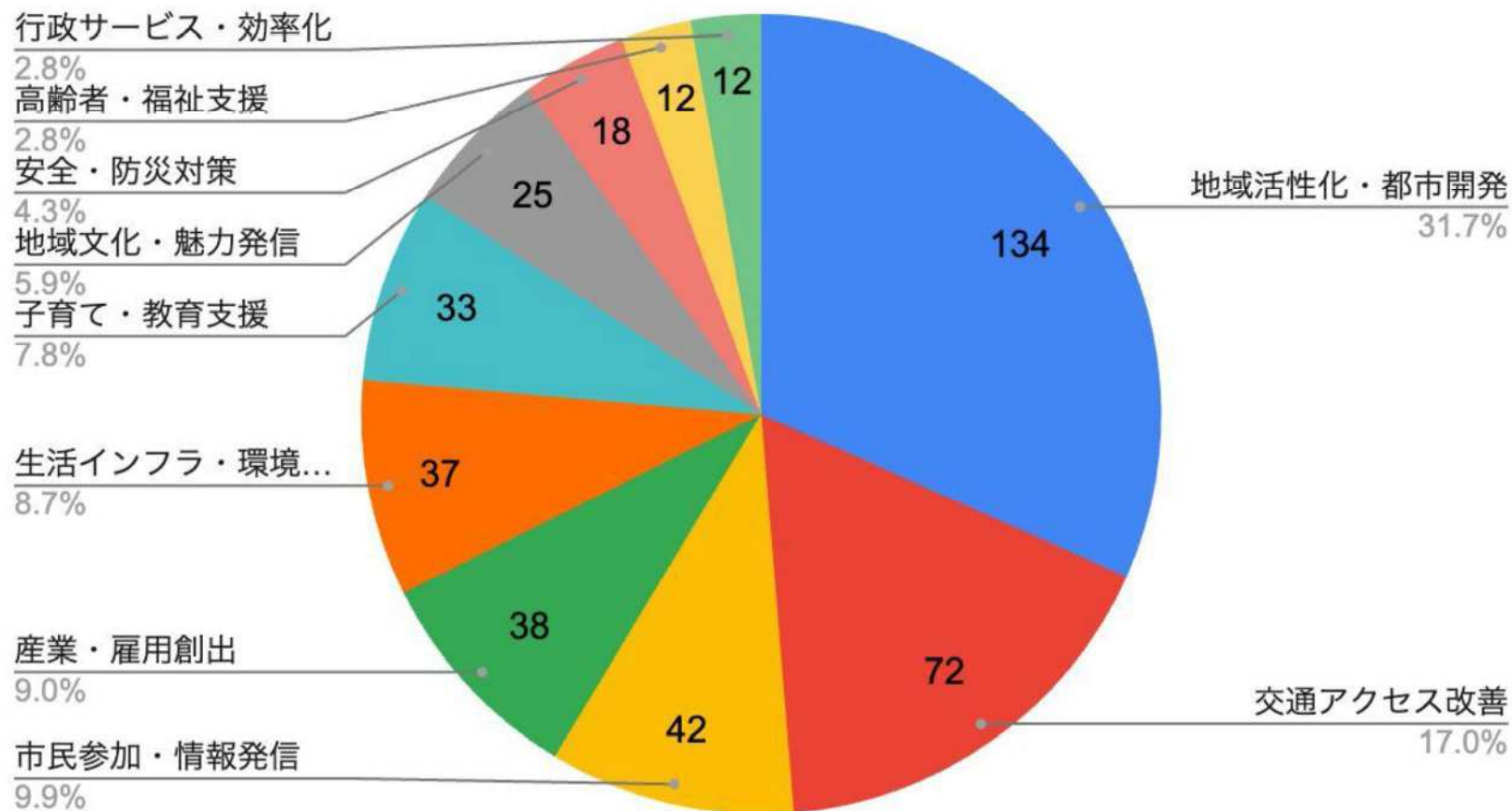
※UU=ユニークユーザー数。複数コメントした場合でも同一ユーザーとしてカウント

カテゴリごとの分析

カテゴリ別コメント件数

コメント全件をアイデアのカテゴリに分けた場合、下記の結果となった。

カテゴリ別

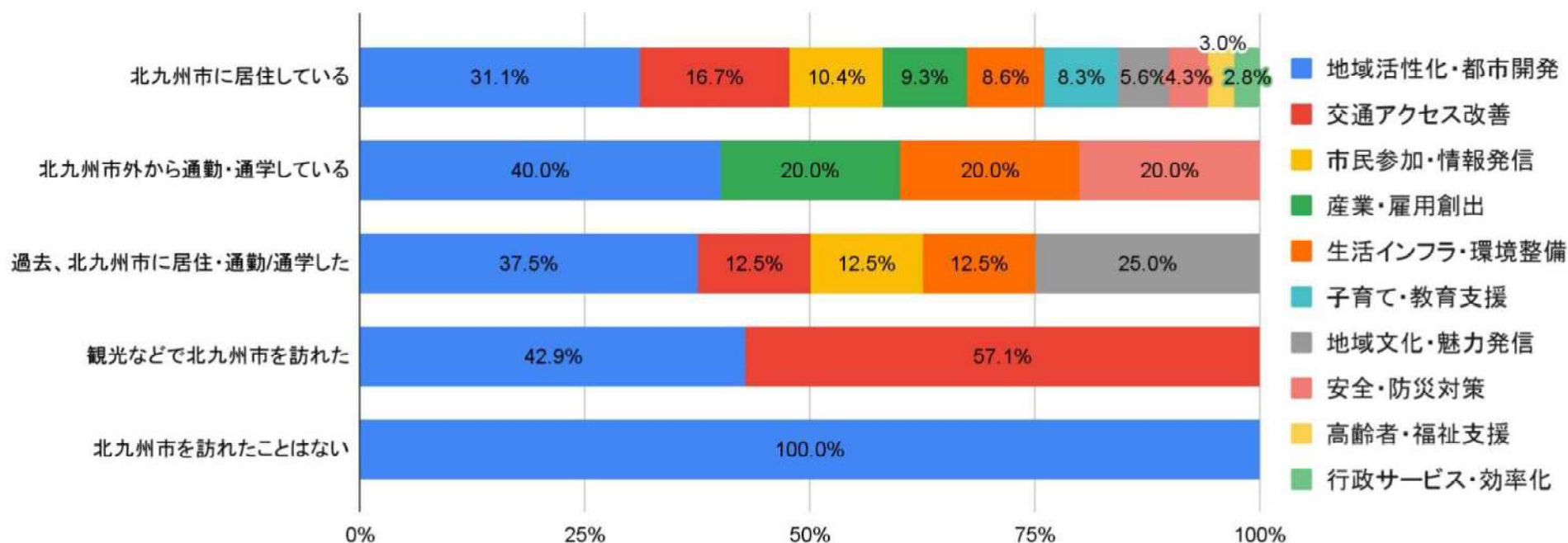


クロス分析と考察

カテゴリごとの分析 | 北九州市との関わり×カテゴリのクロス分析

- 北九州市との関わりについて、カテゴリ別のクロス分析を行ったところ、以下の通りとなった。

北九州市との関わり×カテゴリ



カテゴリごとの分析 | 年代×カテゴリのクロス分析

- 年代について、カテゴリ別のクロス分析を行ったところ、以下の通りとなった。

年代×カテゴリ



全体考察

今回の意見募集では、延べ**423件**の具体的なコメントが集まり、多様な課題・要望が分類された。定量的にも、北九州市の将来に向けた関心の高さや、生活に根ざした率直な声が反映された結果となった。

①「地域活性化・都市開発」が最多（134件、全体の31.7%）

最も多く寄せられたのは、「地域活性化・都市開発」に関する意見。黒崎駅前再開発や空き家のリノベーション、商店街の賑わい創出など、具体的な地域名や場所を挙げて改善を求める声が多かった。30～40代からの具体のコメントとして、町全体の活気、士気への憂いという切実な思いが背景にあると見られる。

②「交通アクセス改善」が次点に（72件、全体の17.0%）

北九州空港へのアクセス強化やモノレール延伸、JR便数の増加といった、広域移動や生活動線に直結する声が多数を占めた。20～60代まで幅広い世代からの声があり、特に出張や移動が多い働く世代にとっては、都市間・都市内交通の利便性が生活の質や、暮らしの基盤を設ける地域への満足度に直結する要素であることが読み取れる。

③「市民参加・情報発信」や「地域文化・魅力発信」にも新たな期待が見受けられる（市民参加・情報発信と、地域文化・魅力発信の合計 67件、全体の15.8%）

市政だよりやSNS、動画コンテンツなどを活用した情報発信の強化に加え、「出身者が遠隔からでも関われる仕組み」や「市民・企業の多様性の可視化」を求める声が見られた。また、「工場夜景の観光資源化」など、地域固有の資源を活かしたユニークなまちの打ち出し方についても、多様な提案が寄せられた。年代別では20～40代の比率が高く、特に30代を中心に“発信”と“関与”の両面に強い関心があることが示された。

④ 「産業・雇用創出」も根強いニーズ（38件、全体の9%）

「モノづくりの街」の再構築や、実証実験の誘致、若者雇用の拡充など、雇用と経済活性化に関する意見も目立った。特に20～40代から、「中小企業への支援」など、持続可能な産業基盤を求める声が集まっていた。

⑤ インフラ整備や安全対策への声も多く寄せられた（生活インフラ・環境整備と、安全・防災対策の合計 55件、全体の13%）

都市環境や交通インフラの整備、公園への屋根設置やアーケードの活用、Wi-Fi環境の提供など、日常生活の快適さを高める視点からの提案が見られた。一方で、防犯カメラ設置への補助や、防災備蓄拠点の整備など、安心・安全を求める切実な声もあわせて寄せられており、いずれも暮らしを支える基盤整備としての重要性がうかがえる。30代～50代が中心で、子育てや介護、働きながら生活を担う世代の視点が反映されている。

⑥ 誰もが安心して暮らし続けられる都市への言及（子育て・教育支援と、高齢者・福祉支援の合計 45件、全体の10.6%）

保育料の無償化や教育環境の整備、育児教室の充実など、子育て世代からは「子どもを育てやすいまち」への期待が寄せられた。一方で、高齢者や障害のある方への就労・介護支援など、ライフステージ後半に向けた支え合いの仕組みに関する声も見られた。30～40代からの意見が中心で、育児や介護のダブルケア層が多く含まれている可能性が考えられる。